



古典倶楽部

古典倶楽部レター 第1号

2009年11月28日発行

ごあいさつ

古典倶楽部の会員の皆様、ご入会いただきまことにありがとうございました。倶楽部発足記念となる第1号のレターをお送りいたします。このレターは通常、PDFファイルでの配信となりますが、チラシなど同封するものがある場合には、郵便でもお送りいたします。今回の第1号もこのファイルをお送りしてから約1週間以内に郵送する予定です。

なお、今回のレターの配信が予定よりも遅れましたことをお詫び申し上げます。

古典四重奏団

各種お申し込み方法/ご連絡先

◆チケットご購入・試演会ご参加お申し込みなどは、以下アドレス宛にお願いいたします。

古典四重奏団 koten@hisamatsu.org

古典四重奏団HPのチケットオーダーフォーマットからお申し込みの場合は、お名前のあとに、会員番号を入力してください。 例/田崎瑞博9999

電子メールを使用することができない場合には、下記宛にお願いいたします。

FAX 古典四重奏団 048-468-7899

郵便 古典四重奏団 〒351-0005 朝霞市根岸台7-48-28



コンサート情報!

※会員割引がある公演のチケットをご希望の場合には、必ず会員番号を添えてご連絡ください。

▶音楽が見える! in 新百合ヶ丘 ～ 古典四重奏団によるレクチャー付きコンサート

第11回公演『フーガの真髄』

2009年12月17日(木)18:30開演 川崎市麻生市民館大ホール (新百合ヶ丘駅北口より徒歩3分)

♪ バルトーク/弦楽四重奏曲第1番, ベートーヴェン/弦楽四重奏曲第14番
一般/2,500円 ペア券/4,500円 学生/1,500円 (全自由席)

※古典倶楽部会員割引あり 一般/2,200円、ペア券/4,000円、学生/1,200円

1. すでにご購入の方は至急ご連絡下さい。当日受付にて差額分をお渡しいたします。
2. セット券ご購入済みの方の差額分は300円とさせていただきます。
3. 会員の方は何枚でも購入することができます。

#古典四重奏団にとっては、レパートリーの拡大としての重要なレギュラーコンサートとなっています。
地元ヴォランティアの支えによる運営です。スタッフを常時募集しています。

▶ベートーヴェン弦楽四重奏曲[9曲]演奏会

2009年12月31日(木)14:00開演(終演予定は21時頃) 東京文化会館小ホール

(古典四重奏団は、14,15,16番を演奏)

全指定席 8,000円

#今年で4回目ですが、年々お客様の数も増え続けています。古典四重奏団は毎年出演していますが、メンバーはこれが終わるとやっと年越し、極めて充実した大晦日を過ごしています。

▶ハイドンの部屋 ～ ハイドン弦楽四重奏曲全曲演奏会第4回

2010年1月16日(土)15:00 松明堂音楽ホール <<1,000円クラシック!>>

“完売御礼!!”

松明堂音楽ホール 04-2992-7667 松明堂音楽ホールHP <http://www.shomeido.jp>

終了予定は2016年!! 膨大な数ですが、珠玉の曲集です。84席のホールなので、予約開始から1,2週間で完売してしまいます。次回公演は2010年5月15日(土)。予約開始前に古典倶楽部レターにてお知らせいたします。

▶クアルテットは告白する / レクチャーコンサート 2回シリーズ びわ湖ホール 小ホール

第1章 ～ハーモニーの告白～

2010年2月14日(日)14:00開演

モーツァルト “ホフマイスター”

シューベルト “死と乙女”

第2章 ～メロディの告白～

2010年3月28日(日)14:00開演

シューベルト “ロザムンデ”

シベリウス “親愛なる声”

全席指定 一般/3,500円 青少年(25才以下)/1,500円 2公演セット券/6,000円
びわ湖ホール 077-523-7136 <http://www.biwako-hall.or.jp/>

#このシリーズへの出演は、2006、08年に続いて3度目となります。びわ湖のほとりにある素敵なホールで、熱心なクアルテットファンの方々に囲まれています。



メンバー関連コンサート

▶アンサンブル《BWV2001》第9回定期演奏会
2010年2月28日(日)16:00開演 浜離宮朝日ホール

出演：アンサンブル《BWV2001》

曲目：バッハ カンタータ177番・131番 ミサ曲へ長調、
ブランデンブルク協奏曲第1番
全席指定：S席/4,500円 A席/3,500円 学生席/2,500円

#メンバーは16名、古典Qのメンバーは全員出演です。
ピリオド楽器(古楽器)での演奏、指揮者なしでの
合唱と器楽のアンサンブル、バッハの名曲の数々を
2001年より演奏してきました。
今回は、ホルンが活躍するミサ曲へ長調や、初期の
名曲カンタータ131番などです。



古典四重奏団試演会への無料ご招待

古典四重奏団は、年間約10-15回の『古典Q試演会』を開催いたします。各本公演直前での通リハーサルで、私服での簡略コンサートの形態となります。場所は都内の小ホールや練習スタジオなどで、各回の定員は3-8名、電子メールでのご連絡→募集→抽選となります。なお試演会へのご参加は、原則として会員の方のみとなりますが、知人の方1名様に限りお連れいただくことができます。

♣古典四重奏団試演会 絵本塾ホール(旧コア石響/四谷駅徒歩8分)

12月15日(火)19:00開演(終演予定/20:30)

バルトーク 弦楽四重奏曲第1番
ベートーヴェン 弦楽四重奏曲第14番 (募集人数8名程度)

♣古典四重奏団試演会 絵本塾ホール(旧コア石響/四谷駅徒歩8分)

12月28日(月)18:30開演(終演予定/21:00)

ベートーヴェン 弦楽四重奏曲第14・15・16番 (募集人数8名程度)

◆お申し込み方法

- 1 下記にて随時受け付けております。
- 2 それぞれ試演会開催10日前を第1次締め切りとし、希望される方が多い場合には抽選とさせていただきます。
- 3 抽選結果は希望された方全員にお知らせいたします。
- 4 締め切りを過ぎても空席がある時には、再度ご連絡いたします。
- 5 知人の方のご同伴をご希望の方は、その方のお名前も記載してください。

古典四重奏団 koten@hisamatsu.org

FAX 古典四重奏団 048-468-7899

郵便 古典四重奏団 〒351-0005 朝霞市根岸台7-48-28



【クアルテットの部屋】ご案内

会員の皆様からのエッセイなどを掲載いたします。古典Qへの質問などでも結構です。どしどしお寄せ下さい。

- 1 字数は100字から2,000字
- 2 電子メール・FAX・郵便のいずれかでお送り下さい。
- 3 データでも手書きでも結構です。
- 4 投稿が多い場合は、掲載をその次の号に延期させていただくこともあります。
- 5 会員番号とお名前を掲載させていただきます。ただしペンネーム可。

田崎の音楽雑記帳 第1楽章

古典倶楽部レターの記念すべき第1号となりました。この「音楽雑記帳」では、私が日頃感じたことや昔の話など、思いつくままに書いてみようと考えています。拙文どうかご容赦ください。第1楽章は、クアルテットとの出会いについてです。

はじめに

田舎町から東京の音楽高校に入学した私は、オーケストラから室内楽まであらゆるアンサンブルができる環境をととても楽しみにしていました。入学してほんのすぐに、仲間をつのって弦楽四重奏を始めたのです。私はヴァイオリン科で入学したのですが、このクアルテットではヴィオラを担当しました。曲はモーツァルト初期作品のイ長調K169、明るく楽しい曲です。とある放課後に集まった4人は、その第1楽章を弾き始めました。どんなレベルだったかは憶えていませんが、きっと目茶苦茶だったでしょう。はっきり憶えているのは、始まって30分もしないうちに意見が対立し、激しい言い合いになったことです。私が生まれて初めて組んだクアルテットは、その後数回のリハを経ただけで解散してしまいました。

もっと和気あいあいと気楽にやっていたら長続きしたろうにと思うのですが、これも経験のひとつなのでしょう。そのあとすぐに組み直したクアルテットは4,5年続くことになりすから、一応同じ轍は踏まなかったとみえます。

さて、高校3年のころ、私はレコードでも聴いたことがなかったバルトークの弦楽四重奏曲を、生で体験することができました。しかも演奏は、当時まさに絶頂期にあったハンガリーのバルトーク弦楽四重奏団です。

衝撃はすさまじいものでした。もちろん当時の私の耳ですからきちんと聴けたわけではありません。しかしその驚異的なアンサンブルと音楽への集中力、そしてバルトークの東洋的な響きとリズムに興奮させられたのです(現在でも、バルトークの作品は楽譜を詳細に読み、何度もリハを重ねなければ、隅々を把握することはできない重みがあります)。

それほど理解できたわけではないのに、どの楽章でも最後の音が鳴り響くと、何かが完結したという気持ちと充足感が起こって、そのことが不思議でなりません。今にして思えば、それが作品の持つ説得力と必然性であり、それを表出しきったバルトークSQのすばらしさだったのでしょう。そして同時にこう考えたことを思い出します。これらの作品は、自分とはあまりに次元の違う世界であり、触れることすら到底できないだろう、と。この日の演奏に出会えば、誰しもがそう思うのも当然でしょう。

しかしその予想に反して、20数年後には古典Qにおいて全曲演奏に挑戦することができるので、人生はわかりません。あの解散劇から始まった私のクアルテット人生は、その後なかなか退屈できない充実したものとなり、これからも大いに広がりを見せてくれそうです。もし高校生のあのときクアルテットに触れなかったら、と想像しても、いつかやはりこのジャンルに辿り着いていたに違いありません。かくしてクアルテットの不思議な魅力は、私をまるごと強烈に引きつけたようです。

古典四重奏団には、まだまだこれから超えなければならない山脈がそびえ立っています。どうか皆様、私たちにそれらを越える勇気を与えて下さるよう、心からお願いいたします。

田崎瑞博

(転載はお断りいたします。どうぞご諒承ください)